

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要】

事業所番号	1291000105		
法人名	株式会社 ケアサービス まきの実		
事業所名	グループホーム 相浜ガーデン		
所在地	千葉県館山市相浜75-1		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果市町村受理日	平成29年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成29年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】

<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活リズム、趣味嗜好を尊重した関わりに努めている。 ・生活歴をふまえ残存機能を活かした日常的な家事(炊事、洗濯、掃除等)についてサポート。 ・運営推進会議を始め今年度より地域づくり活動に参加し地域住民との接点が増えた事により信頼関係の構築、情報交換がし易い環境となっている。 ・事業所開設から5年経過したが当時より継続して勤務している職員が多い事で入居者様、ご家族様、地域住民とのコミュニケーションがより円滑に図れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは法人の運営するグループの中では比較的新しいホームであるが、今年開設5年を迎えた。管理者ははじめ定着率の高い職員により地域との連携を深め、入居者に寄り添ったケアで穏やかなホーム運営を行っている。ホームでは年度ごとに職員への行動に直結する目標を掲げるとともに、8項目からなる「行動指針チェック表」で毎日自己評価により自主的な反省を促し、理念に沿った運営の実践につなげている。高齢者の支援に志を持った職員が多く離職も少ない。入居者からの感謝の気持ちを働く喜びに感じつつ、困難な方の支援にも快く努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、信条、年間目標に沿った事業所目標、ユニット目標を掲げ始業前に黙読し意識づけを実践している。	法人の理念信条に沿って毎年当ホーム及び各ユニットの目標を掲げ実践につなげている。ホームの目標は「基本を確実にし、チームで考え行動する、入居者一人ひとりに責任を持ち自発的に発言、行動する」等具体的な目標を設定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の受け渡し、買い物等入居者様の体調に合わせて共に実施した。また運営推進会議の場において同席する事もあり顔と顔を合わせて話をする機会があった。	ホームは設立5年が経過し、地域との良好な関係を築いている。運営推進会議には地域の各分野のキーマンに参加頂くとともに、市で進めている地域づくり活動の一環として地区のサロンにも参加し、連携を取っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の他今年度より地域づくり活動に参加し地域住民との接点が増え事業所の理解が深まる機会となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1度の実施が出来ている。客観的な意見を頂戴しサービス向上の機会となっている。	運営推進会議は複数の近隣の方や家族なども招き2か月に1度開催している。開催時間は入居者がリビングでくつろぐ10時からとし、ホームの様子を理解していただけるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケースとしては稀だが情報交換がスムーズに行っている。	運営推進会議には毎回市の高齢者福祉課、地域包括支援センターから参加頂き、ホームの状況を理解いただくとともに、市主催の研修などにも参加し関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を始めエレベーターの操作基盤についても施錠していない。夜間については防犯の為施錠実施。外への気持ちがある際にはその理由を探り対応する事を心掛けている。	身体拘束が必要な利用者はいない。日中は玄関なども施錠せず入居者の開放感につなげている。必要な方には離床センサーなども活用し、安全確保にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部からの配信を踏まえ都度各職員に啓蒙を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を立てている入居者様がいるが把握不足は否めない。今後の課題として取り組んで参りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の都度の不明点の確認は当然とし、後日確認した際の疑問についても柔軟に対応する旨伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度の電話での問い合わせの他家族会での懇親会を通じ家族間での意見交換、共有を図っている。	毎月請求書に一人ひとりの様子や健康状況をしたためた手紙に添えて写真を送付しており、家族とのコミュニケーションツールとなっている。家族会は年2回開催してきたが、今後は家族会よりも日常の家族との交流を重視する方針である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課の他、都度職員からの提案等が挙げやすい姿勢を意識している。今年度より事業所定例会議を廃止しリアルタイムで問題定義し検討する流れを構築している。	毎月の定例会議や日々の申し送りで職員の意見を受け止めて来たが、必ずしも議論が深まらないこともあり、定例会議を一旦廃止した。代わりに介護記録ソフト情報、手書きの申し送り、メールなどを充実させ、良く考えて問題提起を促すこととした。	定例会議廃止のメリット、デメリット等につき少し時間をかけて検証いただき、より良いマネジメントの在り方を目指していただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課時の意見集約の他都度職員からの要望、希望等に対し柔軟に対応する様取り組んでいる。(夜勤割合、休日日数(非常勤)、希望休日等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年途中より行動指針チェックリストを稼働させ日々の振り返りに活かしサービスの質向上に向けて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内定例会議での意見交換の他、今年より地域づくりに参加する事で同業者との連携が新たに生まれた。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係についても重点を置き必要な情報について収集しケアに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に初期は環境の変化から不安が強く出る事を踏まえご家族様への情報発信をより密に実施している。その他管理者に限らず一人一人の職員が積極的にご家族様と接点を持つよう伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを見極め、優先順位の確認をご家族様と共に実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の名の元一連の生活場面において入居者様と職員が共に実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な情報発信(電話、手紙、メール、面会時)のもとご家族様も介護者の一員として必要な援助を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	頭髪カット等ご家族様の希望に添えるよう支援している。	ホームの畑で芋掘りや落花生を収穫したり、また初詣や雛祭り等の馴染みの行事を支援している。行きつけだった美容室でカットして貰う、友人等の来訪には家族の了解を得てからにする等、安心できる馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様の個性を尊重しつつ食堂内の席配置等考慮している。また対入居者様とのコミュニケーションで苦慮するケースも適宜職員が仲介する対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて問い合わせに対し柔軟に対応する姿勢を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に誰の何の為、と取り組み入居者様を中心に物事を取られ適宜ご家族様に情報を発信している。	常に話を聴く・コミュニケーションを図るを大切にし、本人の言葉や表情の中から思いや意向を汲み取っている。訪問調査時にも、職員は本人とじっくり向き合いコミュニケーションを取る姿が印象的だった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の培っていた環境を尊重する為ご家族様、前サービスの情報等について重要視している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録の他申し送り簿で情報発信、共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、担当者会議を通じご家族様の意向を踏まえケアプランに反映させている。	本人・家族の希望等を踏まえ、担当職員の意見や申し送り帳・毎日の介護記録、医師や看護師の意見等を基に担当者会議を開き、ケアプランを作成している。モニタリングは3か月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングの他日々の中でケアカンファレンスを実施し適宜対応を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、時期が異なればニーズも異なる事と理解し臨機応変に対応するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手芸ボランティアを招き余暇活動が充実する様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回主治医による訪問診察を実施し体調管理、把握がされている。またホーム主治医以外の希望についても柔軟に対応し適切に情報が伝わる様支援している。	認知症専門医で法人理事長であるホームのかかりつけ医が月2回診察している。入居前からの主治医継続の方の通院は家族が対応するので、受診の一助に、日々様子が分かる本人の状況報告書を手渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコールで入居者様についての体調変化を報告、連絡、相談が実施出来ており速やかな指示を仰ぐ事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループ内の医療機関に限らず各関係機関とのスムーズな連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化により都度の連絡、報告を踏まえ必要に応じて医師からのムンテラを実施している。また都度家族の意向確認も徹底している。	入居時に、特段の医療が必要でなければホームで過ごして頂ける事業所方針を説明し、重度化した時は医師の指示のもと訪問看護師や職員等が、都度家族の意向を確認しながらチームケアで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	総合防災訓練時に消防隊員より救急蘇生法の指導を仰いだ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施により職員の意識を高めている。また地域への還元として夜勤者が不定期で事業所屋外周辺を懐中電灯で照らす対応(防犯目的)を継続している。※地元住民了承済み。	消防署指導の年2回の総合訓練では、ハンドフリーの為にヘッドライト使用や有事の際には開錠等のアドバイスがあった。自主訓練では電源確保や動作確認等を行った。災害時には近隣からの協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアの基本として行動指針チェックにおいて自問自答する機会を設け、その他日々の中で職員指導に努めている。	呼称は苗字を基本とするがニックネーム等本人の希望する呼び方や丁寧な言葉使いで話す、入浴時等では羞恥心に配慮する等人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に誰の何の為、と取り組み入居者様を中心に自己決定できる環境をつくるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入眠時間等個々の生活リズムを尊重し取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本衣類については複数提示し入居者様自らs選択して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理員の協力を得て、好み・リクエストに応えられる様柔軟に取り組んでいる。また配膳、下膳、片付け等入居者様と共に実践している。	配膳・片付け等出来る方は、一緒に行えるよう配慮している。行事食や誕生祝い・リクエスト食・外食、また味噌汁などお椀の温度にも配慮し食べる楽しみを提供している。ミキサー食等嚥下状態に合わせ食事介助の方もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食を通じ客観的な意見交換を実施する他、日々の調理の内容をIpadで撮影し内容、見た目等について活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	都度の口腔ケアの他本人、ご家族様の希望に沿って訪問歯科を適用している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗した時の原因究明をチームで実施し入居者様の生活スタイルに合わせ自立支援に向けて取り組んでいる。	排泄チェック表で本人の排泄パターンを把握し、立位の出来る方はトイレでの排泄が出来るよう声掛け誘導し、失禁に至らないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の他食品(プルーン、オリゴ糖、海藻類等)を提供する他、水分補給、運動、便座での姿勢等に留意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3名の入浴を目安に1人週2回の入浴支援を実施している。時間帯については出来る限り入居者様の意向を尊重している。	10時～15時の時間帯で、ひとり週2回の入浴支援をしている。入浴を嫌がる方には足浴したり、曜日や時間を変えたりするなど対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食堂で伏せている状況を放置せず体調確認した後に居室へと誘導している。またその場面だけで判断するのではなく直前、前夜等の経過を追って把握、判断するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理徹底し納品時の検品、提供時の対応徹底を図っている。今年度についても服薬事故0となっている。服薬による状態変化時についても適宜医療へ報告がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活リズムを尊重し過ごしやすい環境を整える様取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車両を使つての外出(ドライブ)は一部の方に偏っている現状は否めない。※乗降困難な為 外食行事ではリフト車を手配して普段乗車出来ない方にも対応した。	初詣や紫陽花見物・紅葉狩りなど季節ごとのドライブがある。リフト車を手配して普段乗車出来ない方にも一緒に外食を楽しんで頂いた。庭の畑には、季節により日常的に野菜の水遣りや収穫など行い、外気浴を兼ねることが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の個性を尊重し気分を害する事の無い様支援、対応できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会ノートを活用する他、適宜電話対応についても希望に添える様対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物品については生活歴を踏まえ自宅等より持ち込んで頂き環境を整えている。	居間や廊下等の共用の空間は、利用者の作品や花などが飾られている。居間は常時利用者が集う場であり、温度や湿度など適切に配慮されている。長い廊下は手すりがあり、歩行訓練の場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブル、椅子の他ソファの配置に配慮し入居者様同士の関係性が保たれるように取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力を得て使い慣れた物を配置している。	自宅から使い慣れたテーブルやタンス等持ち込み、本人の使いやすい様配置している。家族の写真や、自身が作った人形を飾る方など個々の好みに沿った居室作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の理解を深め状態変化に敏感に気付く姿勢を養うために日々取り組んでいる。「なぜ」と疑問にもつ姿勢を徹底し統一した対応を図る事に努めている。		